

# 令和3年度 さいたま市立宮原中学校 学校関係者評価書

さいたま市立宮原中学校  
学校関係者評価委員長

## 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数  
10人
- (2) 実施回数  
2回（対面開催1回、書面審議1回）

## 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- コロナ禍で通常の学校運営が難しい中、アクティブ・ラーニング等新しい教育の方向性が求められ、課題も多くあると思うが、教職員の皆様がそれぞれ努力していることがうかがえる。
- 学校評価アンケートの各項目で肯定的な回答が得られていることは、保護者は概ね学校を信頼していることがうかがえる。保護者の記述アンケートの良い点を伸ばし、改善意見は精査し取り組んでいけるとよい。
- 不登校生徒、生徒間暴力の件数が多いことが気になる。不登校生徒のフォローやいじめとの関係がないかしっかりと見守り、丁寧で粘り強い指導（経過観察）をお願いしたい。
- いろいろな家庭環境をかかえた子どもたちがマンモス校なので在籍していると思う。その結果、多少の問題は生じると思う。まずは家庭が子どもにとって心安らぐ場所なのかどうか気になる。
- コロナの影響もあり「みやはらまつり」をはじめ、地域との密接な環境で生徒が体験する貴重な活動が少なかったのは残念である。通常の学校生活や部活動などでは得られない体験（「こんなこと」と思えるようなこと）が生徒の将来には意外に大きな影響を及ぼすと思う。
- 地域の小学校、中学校、高等学校の中心校として、連携を取りながら活動をしてもらいたい。
- 教職員の時間外在校時間は結果だけではなく、どのような手立てを行うべきなのかを示していく必要がある。
- 学校に訪問した際に、生徒のあいさつが元気よくできている印象である。

## 学校関係者評価を受けた学校の対応

- GIGA スクール構想の本格実施により、ハイブリッド型授業の実現が可能となった今年度は、With コロナの時代に即した ICT の活用が求められました。それに対応すべく教員の研修が必須です。また、ICT の活用を通して、個別最適な学びと協働的な学びの実現につなげていき、新学習指導要領の着実な実施や「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。
- 不登校生徒への対応や、生徒間暴力に関する指導は、ご指摘のとおり、生徒指導部会、教育相談部会を中心に組織的に粘り強く対応してまいります。具体的には担任による日々の生活ノートや毎学期の始めに行う心と生活のアンケート、2学期、3学期に実施している二者面談、三者面談などで、各学年、教科担当、部活動担当等の複数の目を通して、生徒の様子をアンテナ高くして把握してまいります。そして、より良い方向に導けるよう支援・指導を継続してまいります。
- 「よい授業」4つの因子をベースに、学力向上を図ってまいります。中でも ICT の活用を通して、アクティブ・ラーニング型の授業が展開できるよう個々の教師の授業力向上に努めているところです。また、全国学力・学習状況調査のアンケート結果から読み取れた家庭学習の時間が少ないことも課題として捉え、学習習慣の定着を目指し、個々に家庭での学習が進められるようサポートしていきたいと考えています。
- 多忙を極めている教職員の時間外在校時間においては、業務の改善を学校規模で実施していく必要があると考えています。学校教育が果たすべき役割である幹を残し、枝葉の部分において「無くす」、「減らす」、「変える」努力を継続してまいります。
- 来年度、コミュニティスクール完全実施に向けて、学校運営協議会準備委員会において「地域に愛される子どもの育成」がテーマに掲げられました。生徒たちにより良い教育活動が展開できるようコロナ禍においても、可能な限り地域との連携を密にしていきます。温かいご協力をお願いします。

さいたま市立宮原中学校 学校長 堀口 成之